

つながる、つなげる。

地域の絆きずな

地域コミュニティの活性化は、鹿児島市でも課題の一つとなっています。特に、若い力が求められる今、地域を盛り上げようと取り組んでいる人を紹介します。

玉里団地の精肉店に勤務する大野雄二さん。8年前28歳の時に、有志で玉里団地青年団「魂里団志」を結成し、以来会長を務めています。地域の“元気発信源”でありたいという大野さん。地域のために頑張る、その原動力は何なのでしょう。

■地元のシャッター街に衝撃

大野さんたちが活動を始めたきっかけは、玉里団地のシャッター街が新聞で大きく取り上げられたことでした。客観的に見た団地の姿に衝撃を受けます。このまま寂れていくのをただ見ているわけにはいかない、そんな思いを持つ数人で、「何ができるかわからないけどとにかく集まってみよう」というところからスタートしました。何か新しいことをしたいと、イベントが何もない春に地元の公園で祭りをするに。経験者もない中、祭りの段取りやチラシ作りなど全てが手探りでしたが、結果は大盛況でした。2回目以降は、

■「まちの便利屋」のような存在に

現在、「魂里団志」の団員は、飲食店経営者や大工、会社員など20〜40代の14人。毎年恒例となった春祭りを主催しているほか、町内会の夏祭りの運営を共同で行ったり、地域のイベントに出店したりと、精力的に活動しています。商売をやっている団員が多いこともあり、何でも相談できる、

出店だけでなく、音楽ライブやスポーツ教室などの催しも企画され、年々来場者が増えています。今年4月には7回目が開催され、子どもからお年寄りまで、たくさんの人でにぎわいました。



▶4月17日(日)春祭りの様子

「まちの便利屋」のような存在を目指しているそうです。地域を盛り上げるためにやれることは何でもやる、そんな気概を持って取り組んでいます。

■「地域のため」が「自分のため」に

活動を続けてきて、地域の風通しがよくなったといえます。いろいろな人とつながり、近所でありさつを交わす人や顔見知りが増えることは、防犯や災害時などにも頼りになります。そして、何かあったときは、お互いの得意分野で助け合えるような関係を築いているとのこと。家のことや仕事のことで困ったときは、地域の人に相談すれば、その人の知り合いやそのまた知り合いなどを通じて、大概解決するそう。「地域のため」というときれいごとに聞こえるかもしれませんが、それが回り回って自分のためにもなるんです。青年団にしても町内会にしても、魅力あるものにして、まずは『なんか楽しそう、面白そう』と思ってもらうことが大事だと思っています。それに、友達が多い方がいいと思いませんか」。

町内会、PTAをはじめ、地域の皆さんの協力のおかげで活動させてもらっていることがありがたい、と感謝の言葉を述べる大野さん。「自分一人では何もできないし、青年団で何でもできるわけでもない。いろいろな人やコミュニティが手を取り合うことで、まちを元気にすることができると思っています」。

■子どもたちに「ふるさと」を

大野さんたちが子どもの頃は、今よりも子どもや若い人が多く、町内会の運動会や綱引き大会など、地域の行事もたくさんあったそうです。地域の絆に支えられ、見守り育ててもらった、そんな日常を、「ふるさと」という形で今の子どもたちに残していきたい、と力強く語ってくれました。大人になっても思い出に残るまち、また帰りたいと思えるまちであってほしいと願う気持ちが、大野さんのパワーの源です。

町内会で友達づくりも

今年の4月から、玉里団地東三区町内会の会長をしています。加入世帯数は218、加入率約94%の町内会です。

実は、以前引っ越しをしたとき、「町内会に入るのは子どもができてからでいいのでは」と思っていました。ですが、夜仕事からの帰り道を照らしてくれる街灯(防犯灯)や、ほぼ毎日使うゴミステーションの管理などを町内会がしていると知り、考え直した経験があります。

仕事や子育てをしながらの町内会活動は大変なこともあります。皆さんが協力してくれるので苦ではありません。何より、たくさんの人と知り合いになったことが財産です。子どもにとっても、異年齢の友達をつくる貴重な場になっています。ご近所のお友達づくりのつもりで、気軽に参加してみたいかがでしょうか。

大野さんが加入している玉里団地東三区町内会の会長に、町内会について聞きました。



玉里団地東三区
町内会会長
久永 喜代美さん